

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0170502710 | | |
| 法人名 | 有限会社 コミュニティさっぽろ | | |
| 事業所名 | グループホーム みんなの家 | | |
| 所在地 | 札幌市白石区菊水9条3丁目4-13 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年2月1日 | 評価結果市町村受理日 | 平成24年3月27日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502710&SCD=320 |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------------|
| 評価機関名 | 有限会社 ふるさとネットサービス |
| 所在地 | 札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階 |
| 訪問調査日 | 平成24年2月17日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当ユニットは、毎月独自のカレンダーを作成している。スタッフが中心になり入居者さんにも手伝って頂いて作成し、その月の行事や風物詩(豆まきや鯉のぼり等)を盛り込み、季節を感じて頂けるように工夫している。
 ・要介護5の方にも、可能な限り他の入居者さんと一緒に過ごして頂けるように、寝たきりにはしないで日中は離床して頂き、外出行事等にも参加して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、代表者の福祉に対する熱意で開設され「人間らしい生活、利用者主体、地域との連携」を理念に掲げ、代表者と職員は理念を共有し実践に努めています。近隣の企業の社員が、運営推進会議に出席して頂き、利用者の外出時の見守りの協力を頂いたり、ホーム主催の夏まつりに地域の方々が出店し、また、多くの方が参加するなど、地域との連携に努めています。医療機関との連携も整い、看取り介護も実践されています。フロアー、トイレ、浴室が広く、車椅子使用者が不自由なく過ごせるよう、住環境も整備されています。職員は新聞などの福祉関連記事をファイルし、最近の福祉情報を共有したり、毎食時の検食コメントを記載、行事の反省、外部研修への全員参加を目指し、参加後は報告をするなど、職員の質の向上に努めています。男性職員の育児休暇も導入され、職員の福利厚生面が優れています。職員の職場定着率も良く、利用者は、馴染みの職員と和やかな環境の中で、穏やかな表情で過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|--|--|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| I.理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員全員で理念を作り共有しているが、地域密着の意義を踏まえた理念にはなっていない。理念の作り直しも検討しているが、実行には至っていない。 | 法人理念の他、ホーム独自の理念を職員が話し合い、作成し、掲示しています。理念は、原点に立ち返られる基本として捉え、実践に繋げています。新人職員には、代表者が研修で理念の意義を伝えていきます。 | | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に加入して、地域の行事（盆踊、夏祭り等）に参加している。隣の公園を利用して事業所主催の夏祭りを毎年行っており、多くの方々に参加して頂き交流を深めている。 | 町内の盆踊りに参加、ホーム主催の夏祭りには地域の方々が出店し、近隣の方々が多数参加しています。散歩時や、獅子舞ボランティア、外出時など、地域の方々と交流する機会は多くあります。介護相談の受け入れもしています。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方々に向けての介護相談の窓口になっている。 | | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議は隔月に定期で行い、入居者の日常生活の状況や行事について報告を行っている。会議の出席者から家族会の提案があり、開催の検討を行っている。 | 運営推進会議は定期的開催し、ホームの運営状況、行事報告、行事予定、災害対策など、活発に意見交換しています。近隣の企業の社員も出席メンバーとなり、地域に密着した会議となっています。 | | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市の担当者さんとはスプリングラーの件で大変お世話になった。助言を頂きスムーズに工事を行え、入居者さんの混乱も少なかった。 | 市の保護課、介護保険課の職員には、課題などを相談し助言を頂き、サービスの向上に努めています。市や区の管理者会議に出席し、常に連携を深めています。 | | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 定期的ではないが、身体拘束の勉強会を行ったり研修に参加したりと、理解を深めている。勉強会は昨年4月に行った。夜間は安全・防犯の為に施錠するが、日中は開いており自由に出る事が出来る。 | 身体拘束防止に関する研修会に出席し、理解に努め、他の職員に伝達して身体拘束をしないケアに取り組んでいます。新聞記事から身体拘束などの情報ファイルを作り、職員の意識の向上に努めています。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 定期的ではないが、虐待の勉強会を行ったり研修に参加したりして理解を深め、スタッフ間でも意見を出し合ったりして、虐待防止に努めている。拘束と一緒に昨年4月に勉強会を行った。 | | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在、成年後見制度などを利用している入居者はいないが、制度に関する知識は必要と思われる。簡単ではあるが、昨年4月に勉強会を行った。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約を結ぶ時は契約書を読み上げながら説明して、不明な点などを確認しながら行い、理解・納得してサインを頂く様にしている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者は意見・苦情は直接職員に訴えている。また、ご家族が見えられた際には普段の生活や食事の様子等を伝え情報を共有している | 家族来訪時は、積極的に日々の様子を伝え、コミュニケーションを図っています。毎月発行の広報誌に1ヵ月の様子を具体的に掲載し、意見、要望の問い合わせもしています。意見箱も設置しています。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に1回定期的に代表者・管理者・職員参加の会議を開き、意見や提案等を自由に出してもらっている。それ以外でも、職員の要望や提案をすぐに反映出来るように心掛けている | 月1回の職員会議は、代表者も出席し現場の意見や要望を聴き、速やかに対応しており、働く意欲に繋がっています。代表者が通院や買い物支援も行い、利用者や職員と関わる機会が多く、運営に反映させています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は各ユニットの会議に出席し、管理者及び職員らの状況を把握している。現場の職員の提案により、夜勤の時間を変更した事もある。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修は、その都度職員に案内し参加を促している。事業所で必要と思われる研修は職員を指名して参加して貰う事もある。研修修了後は、月1の会議にて他の職員に内容の伝達を行って貰っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修会や管理者会議、連絡会に参加して情報交換を行い、ケアの質の向上に活かしている。しかし、まだまだ不十分であると思われる。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前にご本人と面談を行い、不安や希望などを傾聴して、安心して入居出来る様に支援している。また見学もして頂き、ホームの雰囲気を感じて頂いている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前にホーム見学して頂き、ホームの生活を見て頂く。その上で、不安な事や質問などを伺い安心して入居できる様に支援している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前の面談の時に、家族や本人がどのような希望があるか確認し、必要なケアを検討しながら準備を進めている。病院等に入院されている方は、スタッフからも情報を得ている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 会話を楽しんだりレクを一緒に行ったり食事の献立を考えて頂いたり、「共に生活する場」という環境を心掛けている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会はいつでも可能であり、その時はホームでの最近の生活を伝え情報を共有している。家族の方に行事を盛り上げて頂いたりする事もある。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 知人や友人が訪ねて来られ、会話を楽しまれている。郵便や年賀状が届いた際には、ご家族にもお知らせをして、関係が途切れないように努めている。 | 知人、友人の来訪時は、関係継続を大事に配慮して迎えています。手紙の代筆をしたり、読んであげたり、電話の取次ぎをするなど、支援しています。墓参り・寺参りなども家族と協力し、出かけて行く機会を作っています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 性格や相性を把握し、仲良く楽しく過ごせる様に配慮している。口論する事もあるが、仲良く話をしたり、お出かけの時にはお互いを心配する事もあり、入居者さん同士支え合っている様に思える。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去の例があまりなく、退去された方もお亡くなりになった。今後退去される方がいらっしゃれば、必要に応じ支援していきたいと思っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | その人の表情や行動を察知して、可能な限り本人の希望に沿った支援が出来る様に援助している。 | 日々の関わりの中で、言動や表情、仕草などから、一人ひとりの思いの把握に努めています。その人らしく過ごせるよう、職員は把握した情報を共有し支援しています。家族の協力を得ることもあります。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族・また関わってきた方々から情報を集めアセスメントを行い、生活歴の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 心身の状態・生活の様子を記録に残すようにしている。1日1頁で、食事や排泄・夜間の状況まで確認できる。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族の他、協力病院の医師や看護師からも意見やアイデアを出して頂いている。月一の会議の時に職員全員でケアプランの内容について検討している。 | アセスメントは全員で行い、会議で意見交換を行い、協力医師や看護師からのアドバイスや、利用者、家族の意見や要望が反映できるように、介護計画を作成しています。日々の実践も記録して、3ヵ月毎に見直しをしています。状態変化時は、臨機応変に見直しをしています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 1日の生活が把握できる記録を用い、ケアの実践や結果を記入している。記録はいつでも閲覧可能で、情報共有と共に計画の見直しにも活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人の希望により、映画を見に行ったりコンサートに行ったりするなど、その時のニーズに合わせて支援するように心掛けている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 外出行事にボランティアをお願いし車椅子を押して頂き、買い物等を楽しんで頂いている。また、正月の獅子舞等もボランティアをお願いしている。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 事業所としての協力病院はあるが、本人や家族の希望する病院があれば、可能な限り対応させて頂いている。 | 協力病院の医師が月2回往診、週1回は看護師が訪問し、健康管理をしています。24時間往診の体制が出来ていて看取りも行っています。歯科医の往診もあり、他科受診時は通院支援もしています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎週火曜日に訪問看護があり、職員から看護師に入居者の状況を伝えている。異常や気になる事は相談に乗って頂き、受診などの対応をしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には面会を頻回に行い、入居者の状態を確認すると共に、顔馴染みを見て安心して頂く様に支援している。看護師と退院に向けての相談も行い、退院時には留意事項などを確認している。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居契約時に、重度化した場合と終末期ケア対応指針の説明を本人又は家族に説明し、サインを頂いている。運営推進会議などでも、重度化や終末期に関しての話し合いを行っている。 | 利用者が終末期になった場合は、医師、看護師、家族と方針を話し合い、連携し、看取りを行ったこともあります。急変時のマニュアル作成、応急措置の講習会に参加するなど、職員同士が連携を図りながら、終末期支援をしています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時や事故時のマニュアルを準備し、いつでも閲覧が可能。消防署で開催された応急処置の講習会に数名参加し、今後も参加する予定である。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回避難訓練を入居者さんも含めて行い、通報や避難等の流れを繰り返し訓練している。地域住民の方の為にマニュアルも作成し隣のガソリンスタンドに配布している。 | 年2回実施の災害訓練は、夜間想定訓練や利用者参加訓練、通報訓練、歩行不能の場合の階段利用避難訓練など、多くのケースに取り組んでいます。地域協力用災害マニュアルを作成し、近隣の協力企業などに配布しています。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個人個人の生活歴を考慮して声掛けを行っている。食事や排泄の時にも本人を尊重し、言葉に気を付けている。 | 利用者の尊厳を大切に、排泄支援時、入浴時などには、プライバシーを損ねないよう配慮し、対応しています。人権に関する研修会に参加し、職員同士で共有して、人格尊重の意識向上に努めています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | その日に着る服を選んで頂いたり飲み物の希望を聞いたりして、自分で決定出来る様に働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の大きな流れはあるが、それに固執するのではなく、疲れがある時は入浴を休んで頂いたり、希望がある時は外を散歩するなど臨機応変に対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人に着る服を選んで頂いたり、一緒に買い物に行ったりしている。家族が持ってきてくれる事も多い。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------|------|--|---|--|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立を一緒に考えたり、誕生日には好きな物を食べて頂いている。食器拭きもして頂いており、皆さん積極的に参加されている。 | 食事の一連の作業は、個人の体調や力量を見極め、一緒に行っています。誕生日の祝い食、弁当持参の公園散歩、刻み食、トロミ食など、楽しい食事と健康維持に工夫して取り組んでいます。職員は、食後コメントを記載し、献立や味付けに活かしています。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | その人に応じて、刻み食やトロミ食を提供している。食事量や水分量は毎日記録しており、検食簿によって提供した料理のバランスも確認出来る。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、全員に歯磨きを促し、歯磨きが困難な入居者には介助を行っている。義歯は夜間に洗浄剤につけて、殺菌・消毒を行っている。 | | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ほぼ全員の入居者さんにトイレの声掛けを行い、失敗を減らす様に努力している。予防的にオムツを使用しているが、全員トイレ誘導を行っている。 | 排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握したり、仕草などで見極め、トイレ誘導しています。夜間オムツ使用時も声掛けして、排泄の自立を目指し支援しています。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分量をチェックし水分を提供すると共に毎朝牛乳を勧めている。体操や散歩で体を動かし自然な排泄を促しているが、下剤での調整が必要な場合もある。 | | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 基本的には3日毎に入浴を勧めているが、状態に応じて毎日入浴（下半身も含め）を勧める方もいる。拒否のある方は、時間や日にち、職員を変えて声掛けを行っている。 | 入浴は週2～3回を目安に支援していますが、入浴を拒む場合などは、利用者の気持ちに添い、臨機応変に工夫をしながら支援しています。身体状況によっては、2人体制で行い、一人ひとりに合った入浴支援をしています。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々に応じて20時に休まれる方や23時に休まれる方がいる。夜間に寝つきが悪かった日などは、午前中に休憩を促したりしている。 | | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人のファイルに処方内容を保管し、職員が常に確認出来る。薬の変更の時は、朝・夕のミーティングの他にノートに記録して情報を共有している。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 自室で囲碁を楽しまれる方や、歌番組が好きな方、風船等を使ったレクが好きな方など、趣味や楽しみに応じて支援出来る様に心掛けている。 | | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 映画鑑賞や演説会・選挙等、その人の希望に応じて援助する様に努めている。ユニット職員だけでは無く、代表やボランティアさんをお願いする事もある。 | 日常の散歩の他、紅葉狩り、大通り花フェスタ見学、花見、大型スーパーへの買い物など、様々な場所に外出しています。趣味の映画観賞に行く方もおり、個別支援を実践しています。外出時は、ボランティアの協力支援を受けています。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご本人が管理出来る場合は、家族とも相談して小額のみ管理している。その他、外出時などに小額のお金を渡して買い物を楽しめる様に支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話の使用は自由で、操作も通話も困難な方が多い。ハガキや年賀状が届くこともあり喜ばれているが、送るのは困難である。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホールの壁に広報を貼ったり、その月の誕生日の方を表示したりして、話題の一つになっている。季節の飾りつけも行っている。また、日差しが強い時はカーテンを閉めたり、乾燥している時は加湿器をつけたり、環境にも配慮している。 | 共用フロアには絵画やキルト作品、レトロな柱時計、季節感ある作品が飾られ、各居室には暖簾が下げられていて、心が和むフロアとなっております。フロアが広々としていて、歩行訓練の場として活用もしています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールの各所にソファやテーブルを配置して、自由にその場所を使用出来る。時々、気分転換に一人でソファに座る入居者さんもいらっしゃる。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居の際に、本人が使い慣れた物(ダンス、テレビ、仏壇、写真、置物など)を持参して頂き、安心して過ごせる空間作りに努めている。 | 馴染みの家具や調度品、テレビや電話など自由に持ち込み、安心して暮らせる居室となっています。大きな備付けの棚には、写真や好みの装飾品、観葉植物なども置かれ、その人らしい居室となっています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ADLの低下に伴い、浴室に手すりを設置したりトイレにウォシュレットを付けるなど、安全・安心・快適に生活して頂けるように支援している。 | | |